



理 念

働く人と地域のために

患者中心の最善の医療を実施します

Contents

新年の挨拶

院 長	佐藤 譲	1
副院長	石丸 正寛	1
副院長	岡崎 裕司	1
副院長	並木 淳郎	2
副院長	香川 秀之	2
看護部長	山口千恵美	2

血管撮影装置を更新	3
-----------	---



新年のご挨拶

病院長 佐藤 譲

新年あけましておめでとうございます。日頃は当院の運営面で多大なご支援、ご協力を頂き厚く御礼申し上げます。当院は労災病院として勤労者医療を実践する一方、川崎南部2次医療圏の地域医療支援病院として、また昨年4月より国から指定を受けた地域がん診療連携拠点病院として、職員一丸となって頑張っております。今後、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、我が国の医療情勢は大きく変化していくと考えられます。病院には「病床機能」の役割を明確化することが求められ、他方クリニックの先生方には「主治医機能」を果たすことが強く求められております。また在宅医療に関して病院の勤務医とクリニックの先生方との間で更に強い連携が必要とされると予想されます。当院はこれまでと同様、急性期医療に力を注ぐ一方、ご高齢の方に対しては日常生活を支え寄り添う医療を提供する道を模索して参ります。当院の職員は、安心安全な医療を提供する地域のランドマーク病院づくりを目指しております。本年も、皆様方のご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。



新年のご挨拶

副院長・外科部長・がん診療管理委員長・医療安全管理責任者 石丸 正寛

新年あけましておめでとうございます。平素より当院を温かくご支援いただき大変ありがとうございます。

前回もお知らせしましたが、当院は厚生労働省から指定を受け、昨年4月より「地域がん診療連携拠点病院」となりました。地域の皆様に当院でのがん診療を知っていただくために、昨年7月2日（土）に当院講堂で「市民公開講座」を開催いたしました。3名の講師に①「これって、乳がん？」～上手につきあっていくために、乳がんを知ろう～、②「がん相談支援センターについて」、③「がんになりにくい食事」の演題で講演してもらいました。会場にはたくさんの方がお見えになり、質問コーナーも設けて盛況でした。次回は本年1月21日（土）にやはり同じ場所です。

また医療安全に関しましては、週1回の医療安全カンファレンス、月1回の医療安全推進委員会、医療安全ミーティングを欠かさず行い、問題とすべき事例はその都度医療安全対策部会を開き、事例検討、再発防止に努めてまいりました。医療安全に関しまして、組織としてより体制を強化して臨んでいく所存です。

どうぞ本年もよろしくお願いいたします。



新年のご挨拶

副院長・整形外科統括部長・地域医療連携室長・感染症治療管理部長 岡崎 裕司

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。旧年も当院の診療、運営面におきまして過分なご厚情、ご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。

今年度は、地域がん診療連携拠点病院としてさらに地域のランドマークたる急性期病院を目指して、入院サポートセンターの充実など院内環境の整備、院内外での積極的な地域医療連携講演会の開催など、地域医療連携の増進を図って行きます。

一方、外来診療においてクリニックの先生方との間で紹介率は80%を越え、逆紹介も70%に迫る強力な右肩上がりの連携実績をあげて来ております。これもひとえに皆様のご協力の賜物と重ねて御礼申し上げます。これから皆様から信頼される医療を病院一丸となって目指して参ります。どうぞ今後の更なる支援、ご協力の程心よりお願い申し上げます。

最後になりましたが皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



新年の御挨拶

副院長・循環器内科部長 並 木 淳 郎

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、当院の診療および運営に対しご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当院では昨年、地域と働く人の急性期医療を担う病院としての責務を果たすべく、救急診療部門で新たな2つの取り組みを開始しました。1つは、救急車の受け入れ時のトリアージを、時間外についてはすべて看護師が行うことです。この結果、複数診療科にまたがる救急患者受け入れが非常にスムーズになりました。2つ目は、これまで休止していた救急総合診療科のホットラインを再開することです。この取り組みにより、重度熱傷や多発外傷などの高エネルギー外傷を除く、内因性疾患については三次救急対応に近い患者さんの受け入れを行うことも可能となりました。これらの取り組みと、従来からの「断らない救急」への取り組みの継続とを合わせ、昨年は7000台を超える救急搬送患者を受け入れることができました。

また、昨年は熊本地震の発災があり、大規模災害が身近で起こるリスクについて、あらためて実感することになった年でした。災害拠点病院である当院では、昨年も毎月災害対策委員会を開催し、「大規模災害時に地域の医療を担う」という使命を全うするための検討を重ね、災害訓練も複数回にわたり実施してまいりました。この取り組みについては、本年も引き続き行ってまいります。

本年も当院は「担うべき役割を果たす」ため、様々な分野での病院機能のさらなる強化を図り、皆様方に信頼される病院を目指し、職員一丸となって努力してまいります。つきましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。新年のご挨拶とさせていただきます。本年も、何卒よろしく願いいたします。



新年のご挨拶

副院長・産婦人科部長 香 川 秀 之

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当院の診療、運営に多大なご支援をいただき、誠にありがとうございました。

私の担当する周産期部門に関しましては、昨年の日本全国における出生数がついに100万人の大台を割り込むことが決定的となるなど、少子高齢化に益々拍車がかかった1年でありましたが、当院周辺の医療圏においては、分娩医療機関へのニーズは増大しており、当院では年間1190件の分娩を取り扱わせていただきました。今後も周産期医療にかかわる産婦人科医、小児科医、助産師をはじめとしたスタッフの確保、育成に力を入れて、皆様の期待に応えられるよう頑張っていく所存です。

また、昨年は当院の働く女性メディカルセンターにおける「働く女性専門外来」が、テレビ番組・新聞紙上に取り上げられるなど、働く女性に対する医療ニーズも益々注目されております。当院としても、働く女性に優しい労災病院を目指していきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

看護部長 山 口 千 恵 美

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。看護部では、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院などの役割・機能をもつ急性期病院として、患者中心のチーム医療が推進でき、安全で質の高い看護が展開できるように、院内教育の充実に加え専門・認定看護師等の人材育成を積極的に行っています。院内教育では、がん看護・高齢者看護（認知症ケア）の強化、近隣看護職の方々と共に学ぶことが出来るようにオープンセミナーを開始しました。また、専門看護師（精神看護）1名、認定看護師は12分野17名、専従のがん相談看護師、糖尿病療養指導士等を含めリソースナースが組織横断的に活動しています。

平成29年度は、入院・退院支援体制の充実を重点的課題に掲げ整備していきます。入院サポートセンター（入院準備として外来の段階からアプローチ）の利用拡大を図り、目的である①患者サービスの向上②手術・治療の安全性向上③入院業務の効率化を推進していきます。また、急性期医療を維持していく上で退院支援機能の強化は重要となりますので、MSW及び退院支援看護師を増員し入院早期からの介入を行うと共に地域の病院や施設の方々との連携を密にとり、入院・退院支援体制の充実を図っていきます。引き続き地域の皆様の期待に応えられる質の高い看護が提供できるように努めています。今年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

血管撮影装置を更新しました。

血管撮影装置を従来のシングルプレーンから、心臓、末梢血管の検査・治療を高いレベルで行えるシーメンスヘルスケア(社) 循環器対応バイプレーンシステム「Artis zee BC PURE」に更新して平成28年11月から稼働しました。本装置は画質の向上と被ばくの低減に優れ、高機能な画像処理によりシンプルになり、新たな機能も搭載されています。



Clearstent

バルーン／ステントマーカーを自動認識し、各フレームを自動的にシフト、回転、加算することにより、ステントの視認性を大幅に向上させます。ステントの留置後のより正確な診断を可能とし、ステントのキンクやフラクチャーの確認にも適応可能です。さらに、この画像に造影血管像をスーパーインポーズすることも可能であり、狭窄部や側枝とステントとの位置関係も明瞭に評価することができます。

